






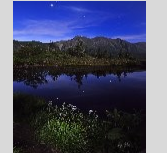






鈴木菊雄写真展「感動の世界の山・日本の山」Part2

本覚寺本堂ギャラリー(東京都台東区) 2023年11月5日(日)～2024年2月

番号	題名	場所	カメラ	フィルム		説明文		
1	海外 -1	氷河上のモンブラン	フランス	アルプス (シャモニー レシヨ氷河)	NIKON D800E	 モンブランとグランドジョラスは、観光地のシャモニーの何処からでも展望できる。感動の作品を撮るため、登山基地のクーベルクル小屋まで、クライマーで写真家の写友と同行した。レシヨ氷河上部ある好展望の小屋に数日間滞在して接近する雪壁を狙った。始発の登山電車でモンタンベールまで、そこから垂直に近い岩壁を数百m下降するが、20kgの撮影機材はかなりしんどい。到着後から3日間は降雪が続いた。晴れたのは4日目、やっと新雪の衣を被ったモンブランとグランドジョラス北壁が姿を見せた。間近に見えるアルプスの変化ある名峰・山群を撮影出来た。		
2	海外 -2	新雪のグランドジョラス北壁	フランス	アルプス (シャモニー レシヨ氷河)	NIKON D800E	 撮影地はネパールのルクラから歩行8日。ベースキャンプに近い、標高5500mのカラバートルからの夕照である。高山病と烈風の稜線で待つこと2時間、高山病でふらふらになりながらも撮ったエベレストである。世界最高峰の夕照作品。		
3	海外 -3	紅燃エベレスト	標高世界第1位	ネパール	ヒマラヤ・クーンブ上部	PENTAX67Ⅱ FUJI RVP	 撮影地はパキスタンのバルトロ氷河の最奥、7日間歩行する標高4600mのコンコルディア。ここからは8000m峰の4峰が展望できる。作品は更に1日歩行した、K2登山ベースキャンプから撮った氷柱原のK2である。	
4	海外 -4	氷河柱のK2	標高世界第2位	パキスタン	カラコルム・K2BC	PENTAX67Ⅱ FUJI RVP	 魔の山として恐れられていたが、1970年にメスナー兄弟が大きな犠牲の後に初登頂した。作品は世界最大の標高差800mのルパール南西壁、モルゲンロートが中腹まで降りるのを待って撮影した。作品は山と溪谷社から出版されたメスナーの自伝「裸の山ナンガルパール」の表紙に掲載された。	
5	海外 -5	モルゲンロートのナンガ	パルバット	標高世界9位	パキスタン	ルパール	PENTAX67Ⅱ FUJI RVP	 長い歩行の末に到着した北側のペンバマB.C。降雪が続き昼間はスッキリとしない。やっと夜になると月光に照らされたカンチエンジュンガが現れた。月が沈み星座が見え始めた時間に、何度もシャッターを押した。デジカメと違い、フィルムカメラは露光時間などが読めない困難さがある。
6	海外 -6	月光カンチエンジュンガ	標高世界第3位	ネパール	ヒマラヤ・パンペマBC	PENTAX67Ⅱ FUJI RVP	 ブランカ山群の北にあるアルパマヨは、ドイツの登山雑誌で「世界で最も美しい山」と紹介されている。撮影は西南側のB.Cからで、セラトーの三角錐が美しい。普段は汚い氷河も光の角度で美しく輝く。その瞬間をまって撮った。	
7	海外 -7	輝く氷河嶺アルパマヨ	ペルー	アンデス	アルパマヨBC	PENTAX67Ⅱ FUJI RVP	 ラックブランの山小屋に宿泊し、黎明時に下見していた撮影地に向かう。前景に小沼やお花畑、遠景にグランドジョラス山群が見える展望地だ。昼間はトレッカーが多いので、夜明けから光線状態が良かった頃に撮った。アイベックスがボンジュールと挨拶してくれた。	
8	海外 -8	ボンジュール・グランドジョラス	フランス	アルプス	(シャモニー上部稜線)	NIKON D800E	 北イタリアのヴェニの谷上部の山小屋に泊まり、黎明時にシュクルイ湖に向かう。無人のお花畑と湖を前景にしたモンブラン南側の貌である。北側の雪稜に比べて、南側は岩稜、登頂は北側より困難である。	
9	海外 -9	モンテビアンコの風貌	イタリア	アルプス (ヴェニの谷 上部)	NIKON D800E	 森の中の天幕場ラス・トーレスから、黎明時に単独で池塘やお花畑が点在する撮影地へ向かう。岩峰に陽光が当たるまで長く、今回も歩きながらの朝食になった。		
10	海外 -10	染まるトーレス・デル・パイネ	チリ	パタゴニア	NIKON D850			

11	日本 -1	モルゲンロートの雪稜 北アルプス 立山別山 11月下旬 PENTAX67 II FUJI RVP		毎年11月下旬に剣御前のコルに天幕泊して撮影した。早朝の別山山頂付近は、朝焼の劔岳やシュカブラが美しい。斜光で立体感のあるシュカブラ、奥の山稜は後立山である。強風・寒風の中での撮影、撮影後は手先の凍傷がしばらく残る。
12	日本 -2	雲巻く鹿島槍ヶ岳 北アルプス 爺が岳・南峰 8月上旬 NIKON D850		種池山荘に宿泊し未明に爺が岳南峰へ。東に薄雲があり、日が昇っても鹿島槍は雲に巻かれてスッキリしない。暫くして気温が上がるにつれて、東側の谷より雲が湧き始めて布引山のコルに流れ始めた。鹿島槍ヶ岳南峰の東面に日が当たり、湧き上がる雲の流れを捕えてシャッターをきった。
13	日本 -3	新年を迎えた星月夜の八ヶ岳 赤岳稜線 1月上旬 NIKON D850		大晦日の八ヶ岳展望荘、恒例の年越し行事と振舞い酒で新年を迎えた。夕刻から深いガスに覆われており、そろそろ就寝かと思った3時頃に星が見えだした。月が明る過ぎるため、月が沈む黎明時まで待って撮った。例年より稜線の雪が少ないが、初めて月光に輝く横岳と星空が撮れた。
14	日本 -4	星夜の槍穂高岳と鏡池 北ア・双六岳 8月上旬 NIKON D800E		鏡池は槍穂高連峰の展望地だが、近年は木が生い茂ったり休憩用のテラス木台が設置されて、昼間に三脚を付けての撮影は難しい。深夜や黎明時に、人のいない時間に撮影する。月星の明かりとライト光のバランスを考えて撮影した。
15	日本 -5	濃霧明けるジャンダルム 北ア・奥穂高岳 7月下旬 NIKON D850		深夜まで雨が続き、午前3時に外に出ると深いガスの中だ。小屋前の白出乗越には多くの登山者が様子見している。迷いなく難所の岩壁に先頭で取付くと、待機していた登山者が続々と後についてきた。奥穂頂上についてもガスは消えない。東空が明るみだした頃に一気にガスが消えて、モルゲンロートのジャンダルムが現れた。
16	日本 -6	黎明の谷川岳 谷川岳稜線 9月下旬 NIKON D850		9月下旬の谷川岳稜線、前日までの台風で、綺麗な紅葉は多くが落ちている。昼間は絵にならない紅葉だが、黎明時に名残の紅葉と東空の赤焼けが秋模様を演出してくれた。
17	日本 -7	八ヶ岳 山稜に咲く 南八ヶ岳・横岳 6月下旬 NIKON D850		横岳に咲く初夏の花と南八ヶ岳を撮るために通うが、梅雨時のため晴れてくれない。近くの硫黄岳山荘に連泊して最終日、やっと晴れてくれた。開花数は少なかったが、岩稜に這いつくばって、斜光が前景の紫花と赤岳にのスポットライトが当たる瞬間に撮影した。すぐに全面に日が当たるので、感動の作品を撮るのは難しい。
18	日本 -8	秋彩穂高岳 穂高岳涸沢 10月上旬 NIKON D800E		穂高岳には多く通ったが、涸沢でゆっくり撮影したことがない。北穂高岳では天候に恵まれなかったが、涸沢に下るとベストな紅葉と好天の兆しがあった。予定を変更して1日だけ周辺を彷徨して撮った成果だ。初めて涸沢からの「秋彩穂高岳」が撮れた。

一度は世界の山に登りたい！ 最高峰のエベレストを見てみたい！ 長年の夢が実現できたのは、リタイア後であったその後2年間でアルプス・モンブラン登頂とエベレスト展望トレッキングの夢は実現したが、もうそれ以上の高峰に登る気力は残ってなかった。登れないなら、せめて世界の山を美しく撮りたい！・・・という新たな目標に変わっていった。感動を作品に残すという目標に変えて20有余年、ヒマラヤ・カラコルム・アルプス・カナディアンロッキー・アンデス・パタゴニア・中国の山と世界の山旅は30回近くに及んだ。
★★海外の山撮影で感じたこと、それは日本の山・自然の素晴らしさ、世界の山に無い美しさが見えたことである。★★

作者紹介:鈴木菊雄 国内の山岳写真から海外のヒマラヤやアルプス、アンデスの撮影。雑誌 山と溪谷グラフやカレンダーにも毎年掲載している。個展「天空のヒマラヤ」を開催。日本山岳写真協会会員、山岳写真同人四季会員。東京都美術館で開催の日本山岳写真協会展、山岳写真同人四季写真展に毎年出展して。

Email: suzu99@d9.dion.ne.jp

homepage: <http://suzu999.web.fc2.com/>

facebook : <https://www.facebook.com/kikuo.suzuki.5>